平成23年12月10日

県P連だより

広島県ＰＴＡ連合会

陽だまり

No.35

# 日Pひろしま大会開催

感謝・感動・笑顔
そして
ありがとう!!

全体会フィナーレ

## ～日Pひろしま大会を終えて～

広島県ＰＴＡ連合会
会長　加藤　千政

おかげさまで日Pひろしま大会は全国から8，300人ものご参加をいただき、大成功を収めることができました。大会開催にあたり、皆さまから温かいご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

広島県P連では4年前から準備に取りかかり、会員の皆さまには「書き損じはがき」の収集にご協力をいただきました。その結果、24万枚という皆さまからの善意が寄せられ、資金面はもとより、はがき一枚一枚に込められた皆さまからの応援の気持ちが、この大会を成功に導く原動力になったことは言うまでもありません。改めてご協力に感謝申し上げます。

さて、今回の大会は東日本大震災の発生を受けて、復興支援のための大会として開催しましたが、その道程は苦難の連続でした。国難ともいうべき大震災を前にして、全国大会を開催することの是非について、ご意見を伺い、議論を重ねた結果、「原爆の被災地である〝ひろしま〟から全国に、復興への願いを届けよう！」と、実行委員が心を一つにして前進することを決定したのです。

復興支援の取り組みや大会内容の変更など、めまぐるしい毎日が始まりました。初めて経験する全国大会に、震災支援の要素を取り入れ、全国から集った仲間たちが心を一つにする大会を成し遂げる。それは、誰も経験したことのない領域に足を踏み入れることでした。

県内10ヶ所で開催される分科会。スタッフ・出演者の総勢1，000名で運営される全体会。大会当日が近づくにつれ、さまざまな予期せぬ出来事や変更点が発生してきます。全国大会という巨大なプロジェクトを実感させられた毎日でしたが、仲間を信じることで乗り切ることが出来ました。これは、運営スタッフのみなさんも同じ気持ちだったと思います。

さて、大会初日、県内各地で開催される分科会の成功を祈り続けていました。夕方、続々と成功裏に終了したとの報告が舞い込んできます。安堵と感動、そして分科会スタッフへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そして、いよいよ全体会当日。続々と切れ目なく来場される参加者の姿は圧巻でした。美土里中学校の生徒による神楽、開会式典、乙武洋匡さんの記念講演、原田真二さんの復興支援コンサート・・・。手前味噌かもしれませんが、すべてが完璧でした。そして、フィナーレの「がんばろう日本！　がんばろうＰＴＡ！」では、東北ブロックの会長さんたちと共に、全国に向けて応援メッセージを届けることが出来、広島市P協と広島県P連の子どもたちが会場8，000人の来場者と共に歌った「ビリーヴ」の感動を、私は決して忘れることがないでしょう。

限られた紙面では言い尽くせませんが、感謝、感謝、そして感謝の日Pひろしま大会でした。来場された皆さま、スタッフの仲間たち、そして応援していただいた県内の現役、ＯＢすべての会員の皆さまに、心からの「ありがとう」を申し上げ、紙面を締めくくりたいと思います。

ありがとうございました！

グリーンアリーナ　8月27日（土）

# 全体会

## 第59回日本ＰＴＡ研究大会ひろしま大会全体会報告

広島県ＰＴＡ連合会　副会長　　赤木俊二

日P会長

美土里中学校によるオープニング
アトラクション神楽

「きんさい！　みんさい！　やりんさい！　子どもたちの笑顔のために」のスローガンで始まったひろしま大会も8月27日の全体会をもって終了しました。

平成23年3月11日の東日本で大震災が発生したにも関わらず、予想を大きく上回る方々が参加してくださったことは本当にありがたく、また大会関係者各位のご尽力に対し深く感謝を申し上げます。

反省点としては、前年度大会より多めに入場者の見積もりをしていたのですが、座席が足らずに途中で追加をしたり、ステージの裏手の席に座ってもらったりと大変ご迷惑をおかけしたことなどが挙げられます。

全体会の流れは、アトラクションとして安芸高田市の美土里中学校神楽同好会による神楽「八岐大蛇（やまたのおろち）」に始まり、開会行事、「五体不満足」の著者で教師の経験もある乙武さんの経験と体験を織り交ぜた基調講演、そして広島出身の原田真二さんによるミニコンサート後のコーラスと閉会行事で終了しました。それぞれの内容がすばらしく4年前から着々と準備を進めてきた集大成の研究大会であったと思います。特に今回は、通常の研究大会と同時に震災から立ち上がろうとしている東日本の復興を応援するという意味合いのある大会でもありました。会場ロビーの一角に東北の震災地からのメッセージとパネルを展示したコーナーを設置し、多くの方々に義援金のご協力をいただきました。

参加者で埋めつくされた会場

最後に「頑張ろう日本！　頑張ろうＰＴＡ！」ということで原田真二さんのミニコンサートと全員合唱のＢｅｌｉｅｖｅを行いました。全員合唱では歌声によって会場が一つになっていき、実に感動的でした。

全国研究大会は終わりましたが、ＰＴＡの活動や東日本の復興が終わったわけではありません。この大会を通して感じたことや、見えてきたものを一人一人が考えて、ＰＴＡの本来の目的である、子どもたちのために、その学習や生活環境を整えるために進んでいくことが全国研究大会の目的でもあると思いますので頑張っていきましょう。

フィナーレのコーラス

東北大震災の展示コーナー

# 県内10会場　8月26日（金）
## 分科会報告

### 第1分科会　―組織運営―

呉市文化ホール

広島県ＰＴＡ連合会　副会長　**増原　和子**

語り合い、手を携え、より良い実感を見つけよう
～未来につなげる希望のバトン。親として、そして何より人として～

呉市文化ホールで開催した第一分科会は、小中一貫教育に取り組む呉市の教育の現状を踏まえ、学校と行政・地域・ＰＴＡが三位一体の連携を図った組織運営について研究討議を行いました。

まず、歴史家・作家の加来耕三氏より「日本復興！　歴史に学び、未来を読む　～英傑に学ぶ組織と人の使い方～」と題して基調講演がありました。

この講演をとおして「過去にも甚大な被害を出す災害に見舞われながらも復興してきた日本。その時、誰（英傑）が現れ、強力なリーダーシップを発揮しつつ、どのようにして組織と人を使い復興させたのか。歴史から学び、未来の（復興した）日本を見据え、何をすべきか」などを会場と共に考えることができました。

最初の実践発表は、「呉市ＰＴＡ連合会の組織運営実践事例」と題して、呉市ＰＴＡ連合会の小河政彦会長がパワーポイントを使用し、各種研修会及び親睦事業、小中学校会員の資質向上をねらいとした運営についての発表でした。

次に、「呉の小中一貫教育」と題して、呉市教育委員会学校教育部　学校教育課長　寺本有伸氏の実践発表がありました。平成十二年度から始めた呉市の小中一貫教育のあゆみとその特徴や平成十九年度から呉市の二十八全ての中学校区で本格的にスタートさせた取組みの具体的内容及び成果と課題についての発表でした。

パネルディスカッションでは、コーディネーターに広島大学　大学院教育学研究科　小原友行教授、パネリストは、呉市教育委員会学校教育部学校教育課　指導主事兼小中一貫教育指導係長　徳本ひとみ氏、呉市立警固屋小学校校長林敏之先生、呉市立片山中学校ＰＴＡ　青木美於会長、日本ＰＴＡ全国協議会　総務委員会　神奈川県ＰＴＡ協議会　新川勉会長により、「小中一貫教育を支えるＰＴＡの役割と可能性」とのテーマで討議を行いました。「子どもたちの温かな環境土壌を育むためには、集う大人の資質向上が大切」とまとめの意見がありました。

この分科会をとおして、未来を担う子どもたちに向けてのメッセージも込めて、今あるべき現状を見据え、私たち大人が伝えていかなければならない過去・現代・未来について会場が一体となり語り合える分科会となりました。

### 第2分科会　―家庭教育―

くすのきプラザ

**「かかわろうや　たのしもうや　子どもたちと！」**

広島県ＰＴＡ連合会　理事　**大塚　浩樹**

安芸郡ＰＴＡ連合会が運営した分科会には、来賓として安芸郡内四町の町長・教育長にご臨席いただき、地元府中町の町長・教育長に、歓迎の言葉、祝辞をいただきました。

基調講演は、現役のプロレスラーであり、青少年育成活動の実践者としても知られている藤波辰爾氏が講演されました。家庭では、二児の父親でもある藤波氏が、「藤波流子育て」と題して、成長してゆく子どもたちとの、その時々に合わせた関わり方、子どもたちの夢や希望を後押しする夫婦のあり様を熱く語られました。途中からは会場にご同行された奥様も壇上に招いて、ご夫婦から思いやりに溢れる藤波家の子育ての様子をうかがうことができました。

安芸郡内三町からの実践発表では、スポーツや行事、あいさつ運動、ノーテレビデー等の実践を通した親子のふれあいや地域連携が報告されました。

パネルディスカッションでは、広島大学教授　林孝氏をコーディネーターに、日本ＰＴＡ全国協議会前教育問題委員長奥村高史氏と、安芸郡内四町で青少年育成活動に活躍中の方々四名をパネリストに迎え、活発な討議が行われました。子どもたちと関わり、親子で楽しみ、育ちあう家庭教育のヒントをたくさん持ち帰ることができたこと、暖かで手作り感いっぱいの運営が大変印象に残りました。

### 第3分科会　―学校教育―

三原市芸術文化センター　ポポロ

広島県ＰＴＡ連合会　理事　**上田　隆政**

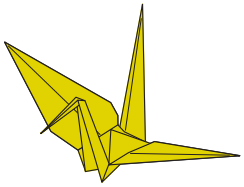
第3分科会は、『子どもたちに「たくましく生きる力」を育む社会の実現をめざして』をテーマに開催しました。

基調講演では、感性アナリストの黒川伊保子先生をお迎えし、脳のしくみについて、男性・女性・大人・子どものそれぞれに脳心理があることなど興味のある内容で、これからの子どもへの接し方、子育てへの参考になりました。

実践発表・パネルディスカッションでは、学校・家庭・地域が連携をして地元の伝統文化である「やっさ踊り」を題材にしたミュージカルの創作、また「やっさ祭り」に参加することで子どもたちが「郷土愛・誇り」「伝統や文化を大切にする心」を育む教育の推進の必要性を参加された方それぞれが感じられたことと思います。

今回の全国研究大会をとおして参加された方が学んだこと、気づいたことを今後のＰＴＡ活動・子育てに繋げていただければと思います。

最後になりますが、運営に携わっていただいた方、参加していただいた方に感謝を申し上げ報告とさせていただきます。



## 第4分科会 ―広報活動―
三次市文化会館　大ホール

### 「効果的な広報活動の確立のために」
### 「私の貯金箱」ヴィオラ奏者　沖田孝司

広島県ＰＴＡ連合会　理事　**平田　英吉**

基調講演で沖田孝司さんが、ピアノ演奏の沖田千春さんと共に「七つの子」等を演奏されました。そして、童謡の「雪」では、私は1番の歌詞と思い込んでいた「犬は喜び、庭駆けまわり」部分が2番の歌詞であることや、「雪やこんこん」でなく「雪やこんこ」であることを知らされました。この話を人に伝えることで、話が広がるように、自分の貯金箱の物（知識）を取り出して使い、人に伝える「伝え方」が大切であることや、雪の歌詞のように、知っているようで本当に物を見ているのか考えさせられました。

最後に、「伝えよう笑顔と心」（沖田孝司さん作曲）を手話を交えて、会場全体で合唱し一体感を感じながら講演が終了しました。

午後の部の実践発表では、島根県奥出雲町立亀嵩小学校ＰＴＡから、これまでの教職員主体の紙面づくりから転換し、学校・家庭・地域を結んで情報発信できる広報紙づくりに取り組んで来られた経過の発表がありました。

そして、福岡県大牟田市立延命中学校ＰＴＡからは、広報紙づくりの成功の秘訣、広報紙のオリジナリティの持たせ方などについて発表されました。

中国新聞三次支局長から、講評や具体的な記事の書き方などの手法の紹介がありました。

最後に、日本ＰＴＡ環境対策委員会の石田副委員長より「子どもとメディアに関する意識調査から見えてくるもの」として、活動報告があり、第4分科会の全てが終わりました。過去・現代・未来について会場と一体となり語り合える分科会となりました。

## 第5分科会 ―地域連携―
しまなみ交流館　テアトロシェルネ

広島県ＰＴＡ連合会　理事　**黒木　伸二**

尾道市のしまなみ交流館で行われた第5分科会（地域連携）は「ふるさと再発見で地域活性～ふるさとを誇る心を育む～」というテーマで開催されました。

午前の基調講演は、地元尾道市出身の映画監督大林宣彦氏の「魅力ある地域・誇りあるふるさと～これからの地域の大人に求められるもの～」と題し、大林氏の表現者としての映画作りの原点と、自らのふるさとを見つめる視点から、今日、ともすれば次第に失われつつあるふるさとを慈しむ心の大切さを話されました。現在は新潟に居を構え映画製作をされているそうで、お話の中で幕末から明治へかけての長岡藩、小林虎三郎の「米百俵」の精神を引用され、我々大人が子どもたちへ未来を託すことの大きな意味を改めて考えさせられました。

3月11日の東日本大震災を期に、日本がこれまで豊かさや便利さのみを追い求め続けて来たことに対して多くの人の意識が変わりつつあり、まさにそれが東北の被災した子どもたちからのメッセージとして聞こえて来ているとも話され、これからの日本を創っていく子どもたちに対する私たち大人の姿勢が問われている事を実感させられました。

午後からは「地域の大人としての関わり合い」と題して、ＰＴＡと地域が協力して取り組む子どもたちの安全を守る活動についての実践事例発表があり、続いてパネルディスカッションが行われました。保護者・地域・学校そして行政が一体となってより良い学校を作り上げて行くこのと重要性を再認識する、大変有意義な研究討議でした。

今後ますます地域と学校の連携をより進めていくことが求められており、私たち一人一人がその認識を広く共有することがいかに大切であることを、あらためて強く確信することができた貴重な一日でした。

## 第6分科会 ―人権教育―
ベル・カントホール

### 「いのち輝け！」～人間力を伸ばして生き生きとした子どもに育てよう～

広島県ＰＴＡ連合会　母親代表　**岡田　広美**

第6分科会、風光明媚な瀬戸内海の中にある瀬戸田ベル・カントホールで開催しました。

会場では、資料集と共に入っていた団扇には、千葉のピーナッツと広島のもみじ饅頭と京都の生八つ橋が手をつないで並んだイラストが、子どものデザインで描いてありました。そして、その団扇を分科会会場前の平山郁夫美術館や耕山寺で見せると無料で入場できるなど細かいところまで気配りがしてありました。そしてお弁当には、瀬戸田のタコを使ったタコ飯に、凍らせたレモンゼリーが添えてありました。瀬戸田の思いやかおりいっぱいの「美味しい」お弁当でした。

さて、私たちＰＴＡは家庭内での親子の接し方、人としてのあり方を見直して、家庭力を取り戻すことが大切です。また人権とは、人の持つ可能性と生きることの責任を考えることだと思います。そんな現状と課題の中で、宮本延春先生の講演は、『子どもたちを他の人と比べるのではなく、どれだけ成長したかを見て、出来たことをしっかりと褒めることによって、小さなことでも少しずつ子どもにとっての自信になり、心の支えとなる。何でも「当たり前」のご時世に反対語である「ありがとう」と感じる目線が必要で、環境・動機・出会いの3つが整わないと知的好奇心は湧いてこない。未来を変えるためには、今日を変える。1日3回「ありがとう」と言おう！　保護者が元気になることで子どもたちも元気になる。これらは明日から始めるのではなくて、今日から始めましょう。』という内容でした。講演を聴いていると時間が経つのがあっという間でした。

パネルディスカッションは矢野大和さんをコーディネーターとして終始笑い声の絶えないディスカッションとなりました。

最後まで、第6分科会のスタッフ皆さまの温かさを感じることができました。スタッフの皆さま、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

## 第7分科会 ―平和教育―
はつかいち文化ホール　さくらぴあ

広島県ＰＴＡ連合会　理事　**谷口　桂司**

第7分科会では、「平和教育」を研究領域として、「子どもたちと創っていく明日～親として大人として子どもたちに伝えること」を研究課題に、パネルディスカッション・基調講演などをおこないました。会場内のホワイエには、廿日市市内の小中学校の児童・生徒・先生・保護者が平和へのメッセージをいれ一羽ずつ心をこめて折った折り鶴を展示し、どの折り鶴からも平和を願うやさしい気持ちを伝えるようにという願いが込った折り鶴が来場者を迎えました。

午前中は「家庭や地域で平和の心を育てる」をテーマに、教育サポーターの仲島正

教氏により「あーよかったな　あなたがいて～「優しさ」という温かい貯金～」の演題で、小学校教師、教育委員会指導主事の経験をもとに「親や教師は子どもの未来の応援団」と「平和への心を継承し未来へ繋げていける子ども達を育てるために私たちPTAができること」として講演を行い、その後シンポジウムを行いました。仲島氏の講演内容は、笑いあり涙ありで沢山の感動がありました。

パネルディスカッションでは、分科会開催地の廿日市市の前市長山下三郎氏や同市教育委員で広島修道大学教授の山川肖美氏、同市PTA連合会前会長の藤澤隆氏、長崎県PTA連合会副会長の里見浩則氏らが「心の平和は、家庭で始めることが大切」など訴え、貴重な被爆体験談もありました。基調講演は、女優・東ちづるさんがドイツ平和村等でのボランティア活動を通じて世界の子どもたちのお話しをされ、人はすべてにおいて対等である、私たちは無意識のうちに自分を優位な立場に置いて比較する傾向があるが、それは相手に対して失礼なことなのにとの言葉がとても印象に残りました。分科会の最後は、廿日市市立佐方小6年生の久保光己君が「戦争や核兵器のない世界」と題した作文を読み上げ分科会を締めくくり、次の世代へ平和の心を継承し未来へ繋げていける子どもたちを育むために私たちPTAが出来ることを考える有意義な分科会となりました。

## 第8分科会　―健康・安全―

府中文化センター

### 食は心なり　～心豊かな子どもを育む食と生活習慣～

実行委員長　**田中　幸夫**

府中市会場の第8分科会では、「健康・安全」のテーマのもと、「食育」を中心に基調講演・パネルディスカッション・実践発表を行いました。

基調講演は、教育・食育アドバイザー、元長野県旧真田町教育長の大塚貢先生に「食で変えませんか、健康な心と体に」と題してご講演いただきました。

問題行動や犯罪の多発する中学校の校長そして教育長として、問題の根源は「食」にありとの考えのもとで、学校給食を改善（米飯給食の完全実施）と同時に学校の花壇づくり、徹底的な授業改善の取り組みをされ、問題行動・犯罪・いじめ・不登校生徒ゼロ、学力も向上したという経験談をお話いただきました。

午後からは、「体力づくりの取り組み」「生活習慣改善の取り組み」についてPTAの実践発表を行いました。

続いて、パネルディスカッションでは、コーディネーターとして日本綜合医学会副理事長の安岡冨士子氏、パネリストとして大塚貢氏、府中小学校栄養教諭の吉川恒美氏、日P厚生副委員長・料理研究家の長島由佳横浜市P協会長の4名の食の専門家による提言と意見交換をしていただきました。この中では、府中市の米飯給食の取り組み、府中市内でできたお米・野菜等を使用する地産地消の取り組み等も、吉川教諭から発表していただきました。

「和食の大切さ」、「牛乳ばかりでなく、豆乳を＝大豆の栽培・摂取＝大豆運動」「学校給食には地元で採れた食材を（地産地消のすすめ）」「米飯給食のすすめ」等々、様々な提言や問題提起をしていただき、ご参加いただきました皆様に熱心に聴講していただくことができました。

心より皆様に御礼申し上げます。

食は、心を養う本（もと）であること、何を食べるべきなのか、食育の大切さをあらためて実感することができました。

最後になりますが、耳を疑うような事件が、まだまだ発生しています。事件発生に至る要因は様々かと思いますが、「食乱れて心失う」、まさに根本原因は、ここ数十年間の私たち日本人の食生活にあるのではないでしょうか。

## 特別第1分科会

広島大学　サタケメモリアルホール

広島県PTA連合会　理事　**児玉　史則**

スマートフォンの登場により、携帯電話の機能がより多様化し、青少年を取り巻く環境は、年々変化してきております。このような状況の中、特別第1分科会は、有害情報から子どもたちを守るためにという内容でした。また、自らを危険に巻き込むような使い方をする子どもたちに、インターネット利用について、きちんと学ばせる教育が重要との内容でした。

インターネット・携帯電話の利用実態をよく理解し、まず真っ先に保護者が意識を変え、携帯電話使用時の家庭内でのルール作りを進めていくことが大事なことだと気づかせていただきました。有害サイトを通じた事件を耳にすると、とにかく携帯電話は有害だ、使用禁止だといった方向に考えがちですが、携帯電話の良い所・悪い所をしっかりと理解し、子どもたちに教育していくことこそ、これからの携帯電話に対する関わり方であり、フィルタリングもその中で理解させていくことが大事とのお話は、耳の痛いところでした。

また、子どもが有害サイトで被害者にならないか、親はいつも心配しておりますが、はたしてわが子は、親の気持ちを理解してくれているのか、もっと子どもと会話することこそ大切だと教えていただいたように思います。

## 特別第2分科会

福山大学　大学会館

広島県PTA連合会　副会長　**宮上　正好**

8月26日（金）に福山大学を会場に、特別第2分科会を開催しました。羽田晧福山市長ならびに、多くの来賓の方々のご臨席のもと、千人あまりの参加者が集い、〝生きる力〟について共に学び・共に考えました。

琴とフルートのアンサンブルのアトラクションに始まり、開会行事の後の基調講演は、元夜間中学校教諭の松崎運之助先生に「命の光を大きく輝かせるために」と題して、「人とのつながりを大切にしながら、生きる自信を感じる事のできる学校であって欲しい」と講演されました。会場では、涙しながら聴講する参加者も見られました。

午後の部は、渡辺美枝子さんをコーディネーターに清川卓二さん、竹原和泉さん、立田晃一さんをパネリストにキャリア教育についてそれぞれの立場での考えを述べ、討議しました。その中で、「子どもが自立していくために学校・家庭・地域が連携していく事が大切である」と投げかけました。

猛暑の中でしたが、多くの参加者が熱心に研修されている様子をみて、スタッフみんなが大きな達成感を感じることができ、有意義な分科会となりました。

## 鐘

食育という言葉がすっかり浸透してきた。しかし、現実はどうだろうか。スーパーに行けば惣菜や冷凍食品のコーナーはいつも繁盛しているし、放課後の子どもたちはファーストフード店やコンビニに群がり、旺盛な食欲を満たしている。

私は惣菜や冷凍食品などを否定しているわけではない。いろいろな理由で家での調理が難しい家庭も多い。偏らずに主食・主菜・副菜、バランスよく取るようにすれば、栄養的には問題なく過ごすことができよう。

しかし、それでいいかといえば、人間はそんなに単純にはできていない。遠くに進学した子に久しぶりに会い、「高校の寮生活はどう?」と聞いたら、「食事が楽しい。だってうちだとお母さん、惣菜を買ってきてチンばっかりだもん。」とちょっと顔を曇らせる。子どもたちはちゃんと見ているのだ。

複雑な料理でなくていい。子どもに野菜を洗わせてそれで用意したサラダ一皿でもいい。やはりそこで作る、ほかほかと湯気の立っているものやパリッと出来立てのもの、季節のものを味わうことは、体だけじゃなく、間違いなく心の栄養にもなっている。

「うちのおかずのいつものあれ」は確実に子どもたちのこころに刷り込まれていく。忙しいを言い訳にせずに、すこしでも頑張っていこうと思う。先輩お母さんが「あれが食べたい!」と言って帰ってくるようになるよ、と励ましてくれた。（貴）

## 東日本大震災に対する義援金活動について

広島県ＰＴＡ連合会では、東日本大震災の義援金を募りましたところ、次のとおりたくさんのご厚意を寄せていただき大変ありがとうございました。９月までにいただいた義援金は次のとおり（社）日本ＰＴＡ全国協議会事務局へお送りしております。引き続き義援金での支援活動を継続していきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

| | |
|---|---|
| 単位ＰＴＡからの義援金 | ４，８９７，３８４円 |
| 日Ｐひろしま大会での義援金（広島市ＰＴＡ協議会と協力） | ６３３，７０７円 |

## 編集後記

おかげ様で、日本ＰＴＡ全国研究大会ひろしま大会が大成功で幕を降ろすことが出来ました。振り返ってみると、ここに至るまで道のりが、何て長く険しかった事だったかと思い出します。ひろしま大会を取り巻く色々な人間関係や誤解等たくさんあったと思います。

しかし、「広島の教育を変えるのだ。必ず成功させる。」という強い意志は、長い年月の苦労を見事に撥ね退け、想像以上の深い感動を周囲の方々に与えました。全体会に参加された東北の被災地の皆さんにも伝わり、笑顔でお礼と感謝を言われたのが、とても嬉しかったです。同時に一日も早い復興を、願わずにはいられませんでした。

ひろしま大会に携わった皆さまの、一生の財産になったのではと心から思います。

広島県ＰＴＡ連合会　理事　秋山　匡美


充実の補償でお子様をサポートします

●授業中やクラブ活動など、校内外を問わず発生する急激かつ偶然な外来の事故によるケガや病気*の補償

＊病気入院補償はWプランのみ対象です。

団体割引適用で割安な保険料！

(注)動産総合保険(携行品一式特約付帯)には、団体割引による割引は適用しません。
スクールメディカルデスク24でお子様の健康相談を24時間受付

●誤って他人のものを壊したり、他人にケガをさせてしまったら…（加害事故の補償）

インターンシップ（職場体験）やアルバイトに起因する賠償責任も対象となります。

●学校管理下中の学用品・身の回り品などの補償
●育英費用 等

充実の補償でお子様をサポートします。

広島県PTA連合会
小・中学生総合保障制度

小・中学生総合保障制度はこども総合保険・動産総合保険（携行品一式特約付帯・学校管理下中のみ担保）のペットネームです。
この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。
詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がありましたら取扱代理店・引受保険会社までお問合せください。
この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独別個に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。
平成23年7月作成　募文No11－T－03025

引受幹事保険会社
東京海上日動火災保険株式会社
TOKIO MARINE NICHIDO
お問い合わせ先・取扱代理店：㈱東海日動パートナーズ広島　TEL：0120－018－217
保険会社：東京海上日動火災保険株式会社 広島支店 広島中央支社　TEL：082－511－9194

共同引受保険会社
あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

共同引受保険会社
MS&AD 三井住友海上火災保険株式会社